

特集

天文×YouTube

～新しい世代のメディアで研究現場のリアルを伝えたい～ 森 万由子（東京大学理学系研究科天文学専攻／アスナロサイエンス）

1. はじめに

私は東京大学で系外惑星を研究する大学院生です。研究のかたわら、科学や天文学を伝える活動に多数参加しています。その中で始めたのが、YouTubeを使った科学コミュニケーションです。YouTube チャンネルを運営し、科学や天文に関する動画を投稿しています。

2. 活動の紹介

まず、私がどのような思いで、どのような動画を投稿しているのかについて紹介します。

2.1 活動の目標

私の動画のターゲットは中高生です。科学に興味はあるけれどよくわからない、といった若い世代向けに、親しみやすい形で、科学を面白がってもらう動画を作るのが目標です。

また、研究する姿を見せる、ということも目的の一つです。私が中高生のとき、身の回りに大学院生はおらず、「研究」とは何をしているのかよくわかりませんでした。そういうふた、「謎の存在」である大学院生の、リアルな生態を伝えたいと考えています。

2.2 活動の状況

2017年5月から、2人の仲間とともに「ボトルゴッホ」というチャンネルを運営しました。このチャンネルでは、科学とは関係のない様々な動画の中で、いくつか天文学に関する内容の動画を投稿しました。チャンネル登録者は2018年12月時点で247名の小さなチャンネルですが、週に1～2回投稿し、中高生からのコメントも多くもらいました。2018年にボトルゴッホは投稿を終了し、その後「ア

スナロサイエンス」というチャンネルを個人で開設しました。今後は2.1で述べたような目的で「科学に関する動画」に絞り、動画を投稿していくこうと考えています。

2.3 動画の内容

以下は私が投稿した動画の例です。「科学の世界の入り口」として、宇宙人・流星・星座など、興味を引きやすい話題のなかから様々な話題を選んで動画にしています。

- ・太陽系に宇宙生命はいるか？～宇宙生命を語る！Part.1～
- ・流星群のよくある間違い！　流れ星をちゃんと見ようぜ！
- ・スペイン・テネリフェ島研究出張の旅！



図1 アスナロサイエンスのワンシーン
動画「スペイン・テネリフェ島研究出張の旅！一観測編ー」のワンシーン。一人で話すことが多いので、飽きさせないように撮影場所を変える・イラストを使うなどの工夫をしています。

3. なぜ YouTube ののか

科学コミュニケーションの場として、なぜYouTubeを選んだのか。それには主に以下のような理由があります。

3.1 視聴者層

YouTube の特徴は、若い世代に使われているということです。図2は、ボトルゴッホの視聴者の年齢層と国立天文台の定例観望会の来場者層を比較したものです。違いは一目瞭然で、ボトルゴッホでは18歳から34歳までの世代が非常に多く視聴しています。この世代は、なかなかイベントには足を運んでくれない層です。YouTube を使うと、こういった潜在的な層にアプローチすることが可能になります。

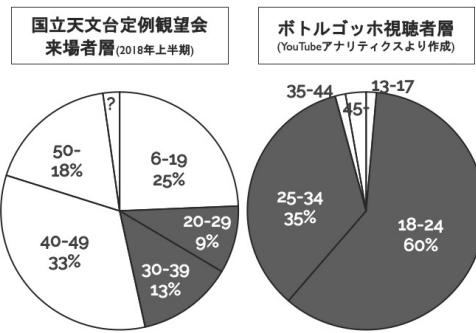


図2 動画視聴者層と観望会来場者層の比較
観望会来場者はアンケートの集計結果、ボトルゴッホ視聴者層はYouTubeのアナリティクス機能を用いて作成しました。

3.2 動画投稿のしくみ

YouTube では、ある一定の（厳しい）条件をクリアすると自分の動画に広告をつけられるようになり、視聴回数に従って広告収入を得ることができます。動画を投稿する側も、視聴する側にも金銭的負担がないことは非常に大きなメリットであり、どんな人にも動画投稿に挑戦しやすいシステムになっていると思います。

3.3 双方向性

対面のイベントに比べるとオンラインでの活動は双方向性に欠けると思われるかもしれません

ませんが、YouTube ではコメント機能で視聴者とコミュニケーションをとることができます。質問が出れば、動画投稿後にコメントで説明を付け加えることもでき、伝える情報の正確性も上がると思います。

YouTube の視聴者は Twitter なども利用していることが多いので、交流のために SNS も上手に使う必要があると感じています。

4. 見えてきた課題

活動をする中で見えてきた課題もあります。その中でも、「個人プレーか、チームプレーか？」は悩んでいることです。

3人で動画を作っていた時は、方向性のすり合わせや日程調整で苦労しましたが、動画の編集やネタ出しを分け合うことで負担を減らすことができました。一人で動画を作るようになると、時間のかかる編集作業は、楽しいながらも大きな負担になります。またモチベーションを保つのも難しいので、今後、様々な科学普及団体や研究室とコラボレーションして活動や研究を紹介する動画を作るなど、他の人とも協力して活動していくべきではないか、と考えています。

YouTube に動画を投稿していると言うと、多くの人が興味を持ってくれます。2018年は投稿が思うようにできませんでしたが、動画をきっかけに様々な活動のお誘いもいただき、動画のもう一つ魅力を感じています。今後、悩みながらも、私ならではの活動を目指していくと思っています。



森 万由子